

【エクアドル内政・外交：2011年12月】

1. 概要

- 12月 7日 第17回国連気候変動枠組条約会議(COP17)
- 8日 国家警察特殊介入部隊兵舎での爆発事故
狂犬病に対する公衆衛生非常事態令の発令
- 13日 露企業と衛星打上げ契約締結
- 14日 エクアドル・コロンビア外相会合
- 19日 エクアドル・コロンビア首脳会合
- 20日 サモア独立国との外交樹立
- 27日 グルジア政府がヤスニ ITT イニシアティブ支援
(株)良品計画がヤスニ ITT イニシアティブ支援
- 30日 ヤスニ ITT イニシアティブの拠出期限を延長

2. 内政

(1) 狂犬病感染者の増加

モロナ・サンチアゴ県タイシャ郡内の先住民共同体であるタルミアット、ツリック・ヌエボ、ワンプイックにおいて、吸血こうもりによる狂犬病ウイルス感染者が増加したことを受け、8日、コレア大統領は同地域を対象に、大統領令第963号による公衆衛生非常事態令を発令した。同非常事態令は60日間で、狂犬病ワクチン接種や医師団派遣など対象地域への医療体制整備、農牧省や厚生省、他各省庁へも連携を求める内容。

(2) 国家警察特殊介入部隊兵舎での爆発事故

8日午後11時15分頃、キト郊外北西部プスキ地区に位置する国家警察特殊介入部隊(GIR)兵舎で爆発事故が発生した。事故による死者はなし、負傷者は22名(警官9名+市民13名(うち小学生7名))。爆発の衝撃により半径1Km内の住宅や小学校の窓ガラスが割れるなどの物損が多数おき、近隣住民約500名が一時的避難する事態となった。事故の詳細について公式発表はないが、国家警察特殊介入部隊(GIR)の多重射撃訓練で、弾薬庫にあったC-4プラスチック爆弾の爆発を誘引したものと見られる。

(3) 9月30日騒擾事件の略称を商標登録

9月16日、アルノバード(Vinicio Alvarado)大統領府官房長官は昨年9月30日騒擾事件を意味する略語(30S、30-S、Prohibido olvidar)を知的財産庁(IEPI)に商標登録申請した。知的財産庁(IEPI)は申請書類(IEPI-UIO-PI-SD-201-98)を受理し、3ヶ月(12月15日迄)の異議申立て期間を経た後、登録に向けた審査を開始する。

14日、パエス(Andres Paez)野党議員(ID所属)は知的財産庁(IEPI)に異議申立てを行った。右申立てでは「"Prohibido olvidar(忘れてはならない)"は一般的に使用されている言葉であり、政府が独占することは出来ない。また、"Prohibido olvidar"は歌手Ruben Bladesの曲名にも利用されている」と述べた。

異議申立て期間最終日の15日に、"協調運動(movimiento Concertacion)も異議申立てを行った。ソリネス(Juan Carlos Solines)協調運動スポークスマンは「一般的に使用されている言葉を登録するのは公共倫理・道徳の侵害であり不可能である。それは歴史的悲劇を思い出すための日付である」と述べた。

3. 外交

(1) 第 17 回国連気候変動枠組条約会議(COP17)

7～9 日、リカルド・パティーニョ外相、マリア・フェルナンデス・エスピノサ遺産調整大臣、マルセラ・アギニャガ環境大臣のエクアドル代表団は、第 17 回国連気候変動枠組条約会議に出席した。

(2) 対コロンビア関係

14 日、当国外務省にて、パティーニョ外相及びオルギン(Maria Angela Holguin)コロンビア外相は二時間に亘って非公式に会合した。右会合には、アレ ज्याノ(Homero Arellano)治安調整相及びバジェッホ(Raul Vallejo)在コロンビア・エクアドル大使も参席した。

19 日、サントス・コロンビア大統領が大統領就任後初めて当国を公式訪問した。コリア大統領とサントス大統領は会談の後、治安、移民、交通、エネルギー、難民、国境の統合、貿易に関する共同声明に署名した。

(3) ヤスニ ITT プロジェクト

(a) 本年目標額を達成

7 日、イボン・バキ(Ivonne Baki)ヤスニ ITT 運営交渉委員会委員長は「エクアドルは資源開発によってもたらされるであろう環境への影響を避けるべく、埋蔵原油を地中に留めるといったプロジェクトを進めるための目標額 1 億ドルに達した」と述べた。政府は本年末迄に支援金 1 億ドルの目標額を定めており達成された。

(b) グルジア政府による支援

27 日、国連エクアドル代表部(NY)は、グルジア政府が正式にヤスニ ITT イニシアティブに総額 10 万を拠出した旨公表した。拠出証明調印式は国連開発計画(UNDP)事務局で執り行われ、グルジアのロマイア大使(Alexander Lomaia)、及びエクアドルのパスミニョ大使(Diego Morejon Pazmino)が署名した。

(c) 良品計画による支援: 外務省プレスリリース)

27 日、(株)良品計画の金井政明・代表取締役社長と国連開発計画(UNDP)の八木浩治・東京事務所次席代表は基本運営協定(Acuerto Administrativo Estandar)に署名した。在京エクアドル大使館は、良品計画の拠出額は総額 20 万ドルに及び 2012 年 2 月 29 日までに現金拠出される旨明らかにした。エクアドルが本年末までとする目標を守るため、拠出を取決める合意文書に調印した同社代表の関心の高さに格別の敬意を払う必要があると旨調した。

(d) ヤスニ ITT プロジェクト 拠出期限延長

30 日、エクアドル政府はヤスニ ITT イニシアティブの拠出期限を延長した。バキ(Ivonne Baki)ヤスニ ITT 運営交渉委員会委員長は、「“ヤスニは世界を駆け巡る(Yasuni recorre el Mundo)”キャンペーンを実施し、明年は総額 2 億 9100 万ドルの拠出金を獲得したい。本年の成果を示すために大統領と会合した。大統領は期限を延長した。87%以上の国民がヤスニを信じ、少額であっても支援しようとしている。このヤスニは世界の優先課題である。世界経済危機の問題は承知しているが、我々が今すぐに何かしなければ気候危機はさらに悪化しよう」と語った。

(4) 対露関係: 衛星の打上げ契約

13 日、エクアドル空軍(FAE)及びエクアドル宇宙庁(EXA)はエクアドル初となる衛星の打ち上げに向け、ISC コスモトラス社(露: Kosmotras)と契約を締結した。

カリオン(Hector Carrion)エクアドル宇宙庁(EXA)担当官は、「2012年9月に、通称 NEE-01 Pegaso 衛星をロシア製ロケットで打ち上げ予定である。衛星は完全にエクアドル宇宙局(EXA)の技師チームにより国内設計・製造される。衛星は全長 75cm、重量 1.2kg、キューブサット 1U 型(Cubesat 1U)小型人工衛星であり、地球周回軌道からの生映像の送信、写真の撮影ができるカメラを搭載している。衛星は主に科学技術ミッション及びその他教育のために使用される。今後、さらに大型で能力のある衛星製造が期待されている。」と説明した。

衛星のコストについては未だ内密とされている。契約締結に向けた協議は 2011 年 1 月に始められ、エクアドルのナデル(Ronnie Nader)宇宙飛行士がロシアで行った調査の結果をもとにロシア企業に決定した。衛星はエクアドル宇宙庁(EXA)技師チームにより約 1 年ほどかけて、外国の援助なしに完全にエクアドルで製造される。右チームは 2009 年 4 月に結成され、ナデル宇宙飛行士、カリオン担当官、Sidney Drouet 氏、Manuel Uriguen 氏、Ricardo Allu 氏が参加している。衛星は放射防御スクリーンを搭載しており、太陽炎の電磁波に耐えることが出来る。同様に、温度安定システム及び太陽光パネルも搭載している。

(4) サモア独立国との外交樹立

20 日、モレホン・エクアドル国連常駐代表代理はフェトゥーリ・サモア独立国国連代表大使とともに両国間の外交関係を樹立する共同コミュニケに署名した。